



上、掘りごたつのある浮遊りの杉の板の間。縁台風のテレビボードや飾り棚の造作がしっくりなじむ和の空間 / 下、アンティークガラスをはめ込んだ引き戸や和室の障子など、建具もすべてオリジナルで造作。丁寧な仕事ぶりに職人技が光る



「風のくら」では「花のある生活」を実現するため、四季咲きのバラを中心に宿根草を植え、育てて眺めて楽しむ庭づくりが進行中。季節ごとに彩りを変える景色が暮らしたくなるのを実感。家づくりだけでなく、初心者でも育てやすい草花や建物に合わせた庭づくりまでトータルで提案してもらえ



育てる、手間ひまをかける 四季を感じる古民家ライフを提案

明治初期に建てられた旧家の建物をハウスランド社が再生。間取りは機能的に構造はそのまま活かして現代的にアレンジした「風のくら」では、自然と四季を感じる暮らしを体感できる

すべての窓から緑が見えるように設計されているのも「風のくら」の特徴。「ハウスランド社」代表・三上信比古さんは「住まいというものは、建物と庭との調和がなりたい」としている。家の中と外をつなぐ工夫を凝らしたこの場所では、建築家の視点から四季と自然を楽しむライフスタイルを提案したい」と語る。

理想の暮らし方を実践すべく、2022年よりエクステリアの全面リノベーションが進行中。家を囲んでいた和風な生け垣を西洋漆喰の張り壁に変え、庭の植栽はレンガや古い枕木を並べてイングリッドシユガーデンに生まれ変わった。季節ごとに違う風景を楽しむため、花壇には四季咲きのバラを中心にクリスマスローズや西洋アジサイを植え、シンボルツリーとして人気のヤマボウシやオリーブ、ジュニアペリーといった落葉樹も仲間入り。裏庭には寄植えのハンギングバスケットを飾った天然石のタイルデッキも設えられており、建物をぐるりと巡ると庭のある暮らしのイメージが広がる。

エクステリア改造計画が進行 四季の移ろいを楽しむ庭づくり



戦前の日本が豊かな時代に建てられた建物。主亡き後、竹林の中に隠れるように建っていた葺き屋根の古民家をハウスランド社代表の三上さんが購入。無垢の木や西洋漆喰といった自然素材を用いて家を建て、自然と調和しながら暮らしやすライフスタイルを体現するためのモデル住宅として再生させた

古き良きものを残す技術で明治初期の民家を再生

明治初期の民家を間取りと構造はそのままに、現代のライフスタイルに合うようにリノベーションされた「風のくら」。内外装には無垢の木や西洋漆喰といった自然素材をふんだんに用い、昔ながらの雰囲気を守るために建具や家具、水回り設備なども職人が造作。スンドグラスやアイアン、タイルなど、アンティークなニュアンスを持つ素材も取り入れて、心和ませる空間をつくりあげている。そもそも木や土といった調湿効果のある素材を使う家づくりは、高温多湿な日本の気候に最適。築100年以上の建築物でも、最先端の断熱材と樹脂サッシを追加することで断熱性能が高まり、一年中快適に暮らせるようになるのだ。